第４学年授業改善推進プラン　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　小平市立小平第八小学校

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の実態 | 改善プラン | 改善プランの評価方法 |
| 国語 | ①新出漢字を覚え、文章中で正しく使用できるように着実に定着させる必要がある。②考えをまとめることや積極的に発言することへの苦手意識を減らす必要がある。 | ①モジュールの時間やＡＩドリルを活用し漢字の学習に取り組ませる。また、小テストの返却後の直しや既習の漢字を文章中で使うよう指導する。②授業の形態や発問を工夫し、自分の考えをまとめられるように支援する。また、ペアや小グループでの交流やロイロノートの活用を行う。 | ①小テストの結果や授業中の児童の様子を評価し、次の指導への工夫に生かす。②児童の授業中の様子やロイロノートの記述から、考えの深まりや意欲の向上を評価する。 |
| 算数 | 1. ４学級５展開で習熟度別指導をしている。学習内容の定着度には個人差はあるが、主体的に学習に取り組む児童は多い。
2. 文章問題の理解が難しい場合、意味理解を深め、活用能力を高める必要がある。
 | 1. 授業の中で適用問題に取り組む時間を確保するようにする。主体的に学習に取り組むよさをさらに高めていくため、各人の頑張りを褒める。
2. 文章で表された場面を図や表等で表し、整理をして問題に取り組むようにする。ペアやグループでの学び合いの場を設け、各々の考えを共有し、自分の考えを広げられるように指導する。
 | ①単元テストの状況を学年で共有し、学習内容の理解度を確認する。②授業中の児童の様子やノート等を見て、児童の理解度を把握し、評価する。 |
| 社会 | ①地図やグラフ、写真といった資料から情報を適切に読み取らせる必要がある。②興味・関心をもって学習できる児童も多い。生活にどのように関わっているのか分かりにくい内容については、結び付けて考えさせる必要がある。 | ①資料の読み取り方を一つ一つ丁寧に指導する。また、資料から分かることを、ロイロノートで考えを共有し、協同的な学びの場をつくる。②学習内容と実生活とがつながるよう、発問や学習形態を工夫する。 | ①資料をもとに提出物（ノート、ロイロノート等）がまとめられているか確認し、評価する。②生活に結び付けて考えることができているかどうか、提出物（ノート、ロイロノート等）や発表などから評価する。 |
| 理科 | ①実験方法や実験器具の使い方を丁寧に教える必要がある。②実験の結果を正確に記録したり、考察したりする力を身に付ける必要がある。 | ①実験器具の取り扱い方や実験方法については、板書に視覚的に表したり、ICT機器を使ったりすることで十分に理解させる。②実験の様子をタブレットで記録し、振り返れるようにする。また、めあてに立ち返ることを意識させ、実験結果から分かることは何か、視点を明確にして考えさせる。 | ①児童の活動の様子や、実験の結果から、実験方法を適切に理解し、活動できていたかを評価する。②発言やノートの記述から評価する。 |
| 体育 | ①学習意欲が高く、主体的に運動へ取り組むことができる。②自己やチームの課題を考え、運動の場や作戦を選択する力を身に付けさせる必要がある。 | ①学習カードや映像資料を活用し、運動の特性やポイントを十分に理解させる。②タブレットを活用して個人やチームの動きを録画し、客観的に振り返り、動きの改善を図れるようにする。 | ①運動の特性を理解した行動やめあてにそった動きが見られた際に評価する。②児童の活動の様子や学習カードの記録を基に、評価する。 |
| 道徳 | ①教材が児童にとって興味深いものであれば、児童は意欲的に取り組む。②感想が表面的なものになってしまう場合は、道徳的価値を見いだせる問いかけが必要である。 | ①ねらいに沿って、自己を振り返る場面を必ず設定する。②発問を工夫し、自己の日常の振り返りから、自分自身を深く見つめられるようにする。 | ①②発言やノートの記述にて、道徳的価値に迫れているのか、自分を深く見つめているのかを見取り、評価を行う。 |
| 総合的な学習 | ①自分たちの力で学習問題を設定し、主体的に問題を解決しようとする姿がある。②自分たちに「できること」を客観的に捉え、願いを実現させる計画を考える力を身に付けさせる必要がある。 | ①活動後の姿を常に共有し、めあてに沿った学びができているかを十分に確認する。②思考ツールを活用して、情報の整理・分析を行わせ、現状を客観的に捉えさせながら、学習の方向性を決めていく力を身に付けさせる。 | ①発言や振り返りシート等を活用して評価する。②授業の様子やワークシート、振り返り等を活用して評価する。 |
| 特別活動 | ①当番や係活動、話合い活動などの活動に意義を見いだしづらい場合は、創造的な活動を価値付けていく必要がある。 | ➀児童間で声を掛け合うなどして協力して活動を行うよう指導していく。また、自ら積極的に役割を果たしている児童を認める声掛けをして、学級全体の意識向上につなげる。　学級活動の時間や帰りの会などの時間も活用して、児童が活動を発表できる機会を確保する。 | ①個人やグループとしての目標や、活動の計画を明確に立てさせ、振り返りを行い評価する。　 |
| 外国語活動 | ①外国語の音声や、基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーションの中で活用している。②外国語を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝える際に、言葉につまる場合は、丁寧な指導が必要である。③声が相手に届かない場合には、コミュニケーションの観点を意識し、相手に伝わる工夫を指導する必要がある。 | ①授業の中で、練習量を確保し、言語活動を中心に授業を組み立てる。②様々な例示を挙げることで、ヒントにさせ、練習していく。③授業の中で、多く、コミュニケーションや発表の時間を作り、外国語で話すことを日常化していく。 | ①授業中に、一人ずつ発表する場面を設定し、達成度を把握する。②授業中に、一人ずつ教師を通過する場面を作り、確認する。③自己評価・振り返りシートを確認する。スピーチを実施し、一人ずつを見取る。 |
| 音楽 | ①前向きに授業に取り組む児童が多い。落ち着いて授業に参加している。②リコーダーに興味をもち、意欲　　的に取り組む児童が多い。タンギング等もほとんどの児童が身に付いている。③音楽づくりや器楽の学習では、グループで協力し、表したい音楽を工夫して表現しようとする姿が多く見られる。 | ①主体的に取り組めるよう、個別の声掛けを丁寧に行ったり、見通しをもって活動できるような工夫を行ったりする。②できるようになったことをたくさん褒め、意欲が持続するようにする。技能が身に付いていない児童には、個別指導をし、定着を図るようにする。③課題の提示の仕方や発問を精選し、さらに表現を工夫しようと主体的に取り組むことができるようにする。 | ①授業の様子で評価する。②授業の様子や個別指導の際に評価する。③授業の様子、発表の様子で評価する。個別指導の際の様子や振り返りのプリント等でも評価する。 |
| 図工 | 1. 多くの児童は制作することの喜びのもと意欲的に制作できている。

②課題の始まりから制作、振り返り、発表と多くの児童がよくできている。また、友達の作品を見て、聞いて自分に生かそうとしている。③新しい道具への使い方の理解が児童によって差がある。 | ①児童の課題理解力や表現力の差に対しては、個別指導を重視して個々の児童に関わり、児童の発想を引き出して解決を図る。②課題理解、児童個々による表現制作、完成、振り返りと一連の活動に見通しを持たせる。③材料や道具、色彩やその特性についての学習を行う。そして、そこから児童の思いの具現化を図り、達成感や制作の喜びをもたせる。 | ①制作過程の姿勢や、鑑賞カードでの振り返り、完成作品で評価をする。②毎回の授業で、進度を確認する。児童自身に見通しを聞き、その内容で評価する。③児童の感想文に、できばえや楽しさ、難しさを数値化して書かせ自己評価を参考にする。 |